

TICAD7記念シンポジウム「アフリカ開発の展望と産業人材育成」
2019年3月26日

アフリカにおける教育開発と産業人材育成 — 研究を通じた国際協力 —



山田肖子(名古屋大学)

高成長を続けるアフリカ

ラストフロンティアへの企業の関心

- 2018年度、世界の成長率トップ10のうち、4か国がアフリカの国
 - エチオピア(年間成長率 8.5%、世界第4位), ルワンダ (7.8%、5位), ガーナ (7.6%、6位), コートジボワール(7.0%、9位)(IMF調べ).

→ 近年、アフリカの経済の好調を受けて、投資の関心が高まっている

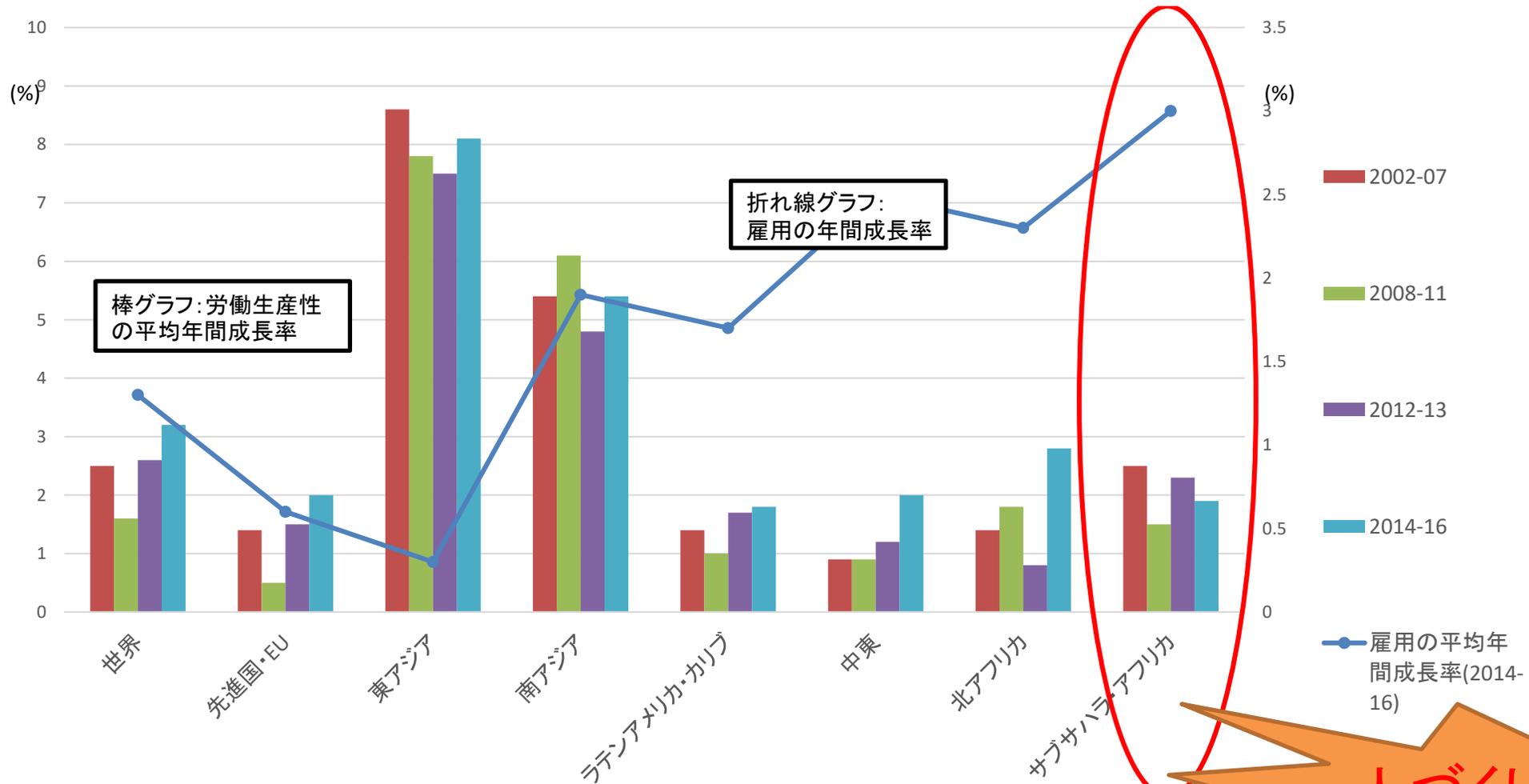
(例)

- 労働集約型産業 – 縫製業など ← 価格競争力が高い製品を世界に売る
- 巨大なアフリカ市場向け消費財 ← 今は利益が出にくいだが、アフリカの潜在力への先行投資
 - 中・高所得向け – 自動車、電化製品など
 - 大衆向けの生活用品 – 調味料、栄養補助食品など
- 貧困削減に貢献するビジネス(BOP) ← 社会貢献としての性格が強い
 - ソーラーパネル、蚊帳、簡易トイレなど

→ 企業は関心はあるが、アジアに比べ、情報や経験が圧倒的に不足している(情報提供が必要)

→ 現地の人材の能力や、育成可能性が読めない

アフリカでは、経済が好調で、雇用も拡大しているにもかかわらず、労働生産性が低い



地域別雇用と労働生産性の成長率

人づくりが急務

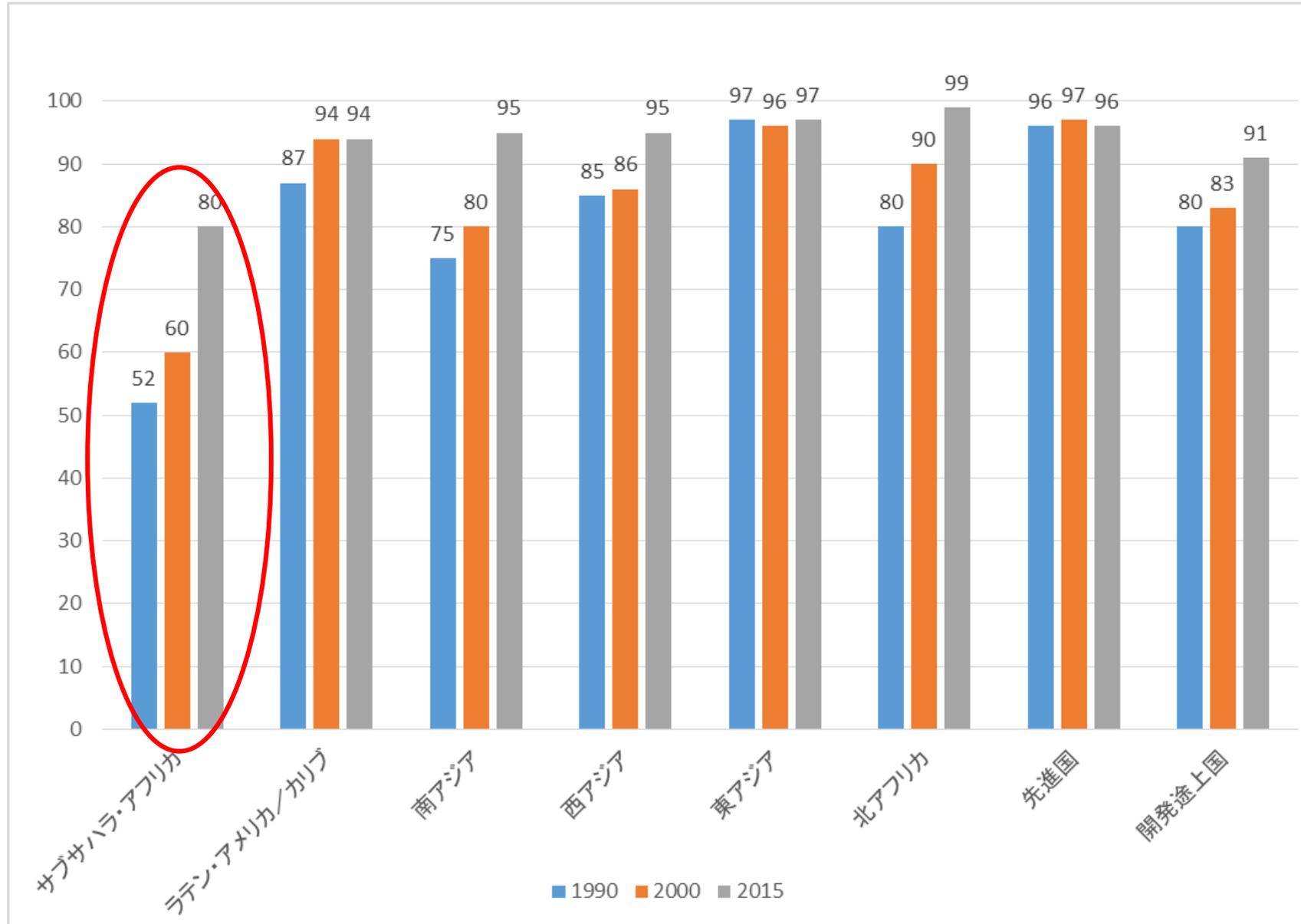
現代アフリカの人づくりの課題(1): 雇用と産業の人材基盤

- 近年の高い経済成長
- 雇用は拡大しているが、労働生産性は低い(図1)
- アフリカの労働人口の4割が24歳以下の若者だが、その層の失業率が最も高い
 - サブサハラアフリカの成人失業率全体は8.0%だが、24歳以下の失業率は14.1% (World Development Indicators 2014)

→国全体の経済は成長しているが、個人には成長の恩恵が行きわたっていない

→技術力がないと、資源に依存した基盤の弱い経済成長に留まってしまう

世界の初等教育純就学率の変遷とアフリカ



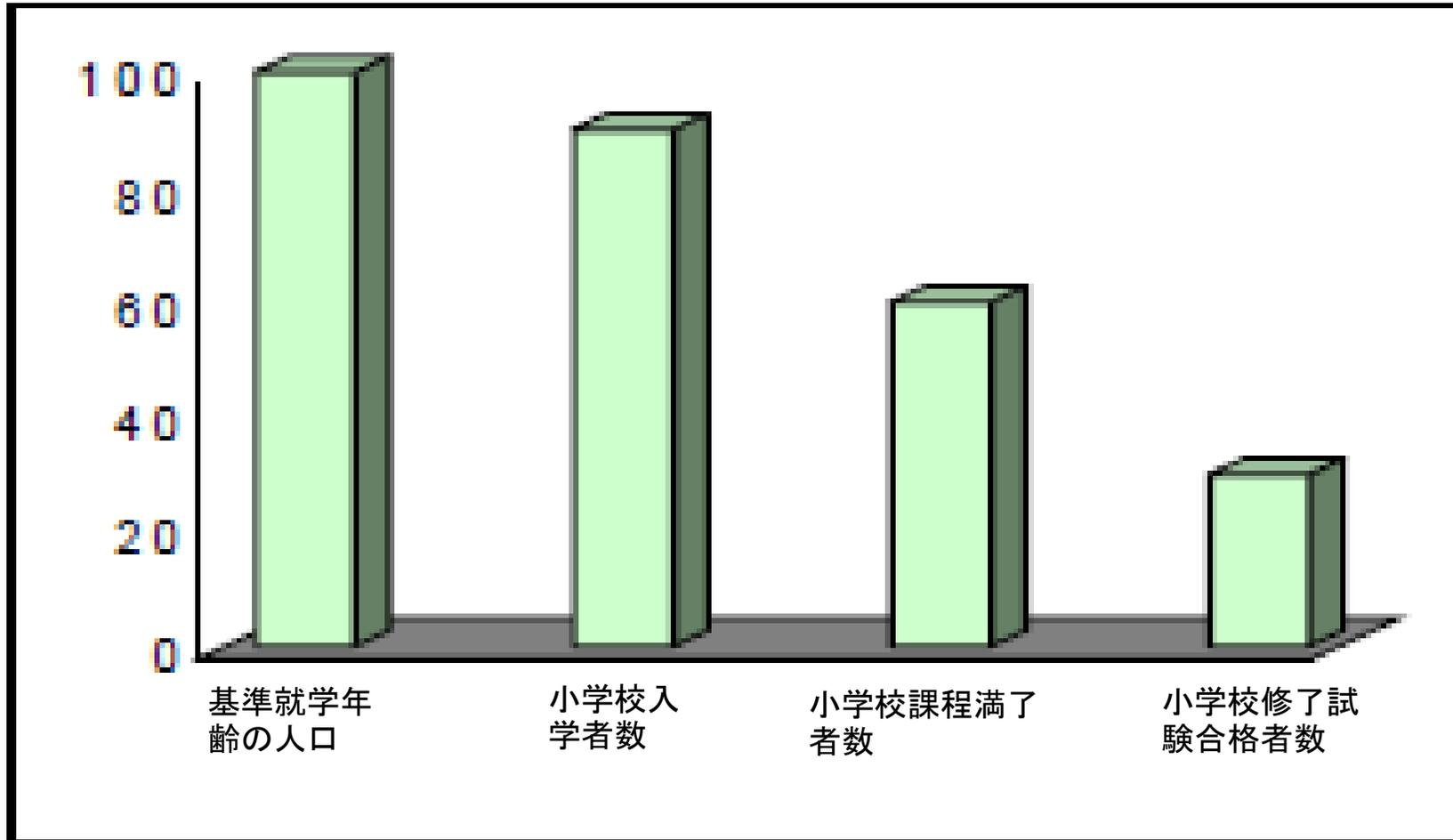
現代アフリカの人づくりの課題(2): 質と包摂性

“Education for All”やミレニアム開発目標の影響

教育は全ての人々が享受すべき人権→小・中学校の就学率を100%に

- 過去15年ぐらいで急に学校が増えている→教育の質が落ちている
 - 生徒がものすごく増えているのに、教師や教室、教材が足りない
 - 資金不足→学校に来ても学ぶべきことを学んでいない
- 学校教育の機会や結果に格差がある(親の教育や経済レベル、民族、男女、都市—農村格差、障がい者など)
- 学齢期の青少年だけでなく、学ぶこと、技能を磨くことは、生涯続く営み←学歴と知識量は別の問題
- 学校を増やすだけでは、**税収増につながらない**ので、政府はいつまでも援助に依存してしまう

就学すること≠知識を身につけること 教育の質の重要性



Source: World Bank (2013), "Education sector strategy update"

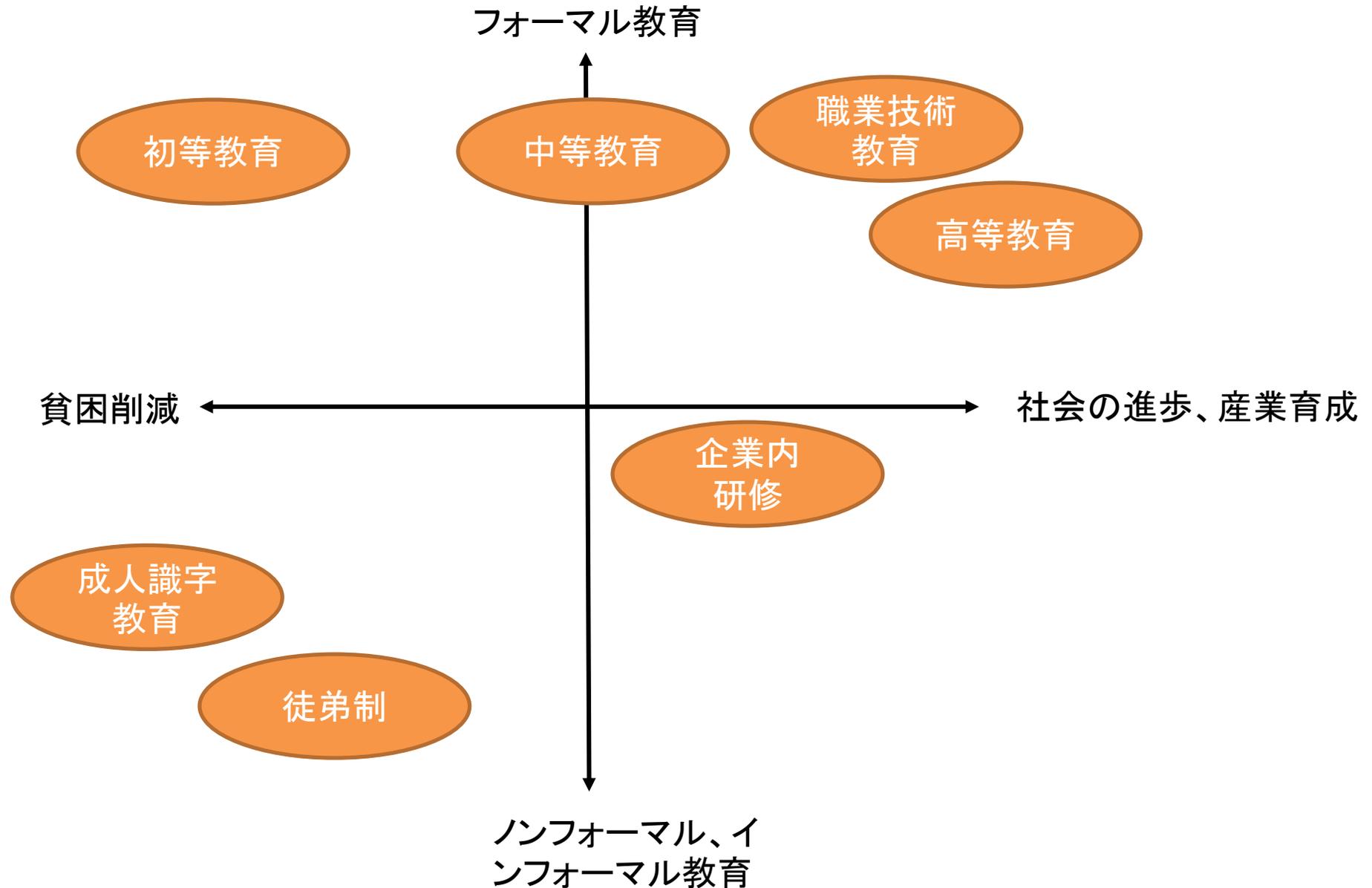
持続可能な開発目標(SDGs)(2015年~) での考え方

「学校に行く」ことは目的ではなく手段。大事なものは、何を学ぶか、学んだことが社会や本人の向上に役立つかどうか

- 雇用可能技術の習得
- 識字、計算能力の習得
- 価値観や態度の形成

学校以外の場(職場や社会)での学習や、多様な年代、社会グループの生涯を通じた学びが重要

教育はすそ野と幅の広い分野

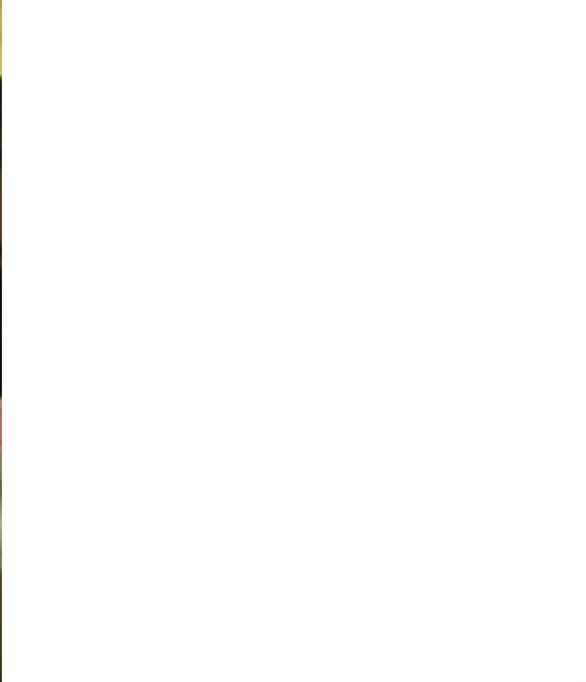




小·中学校



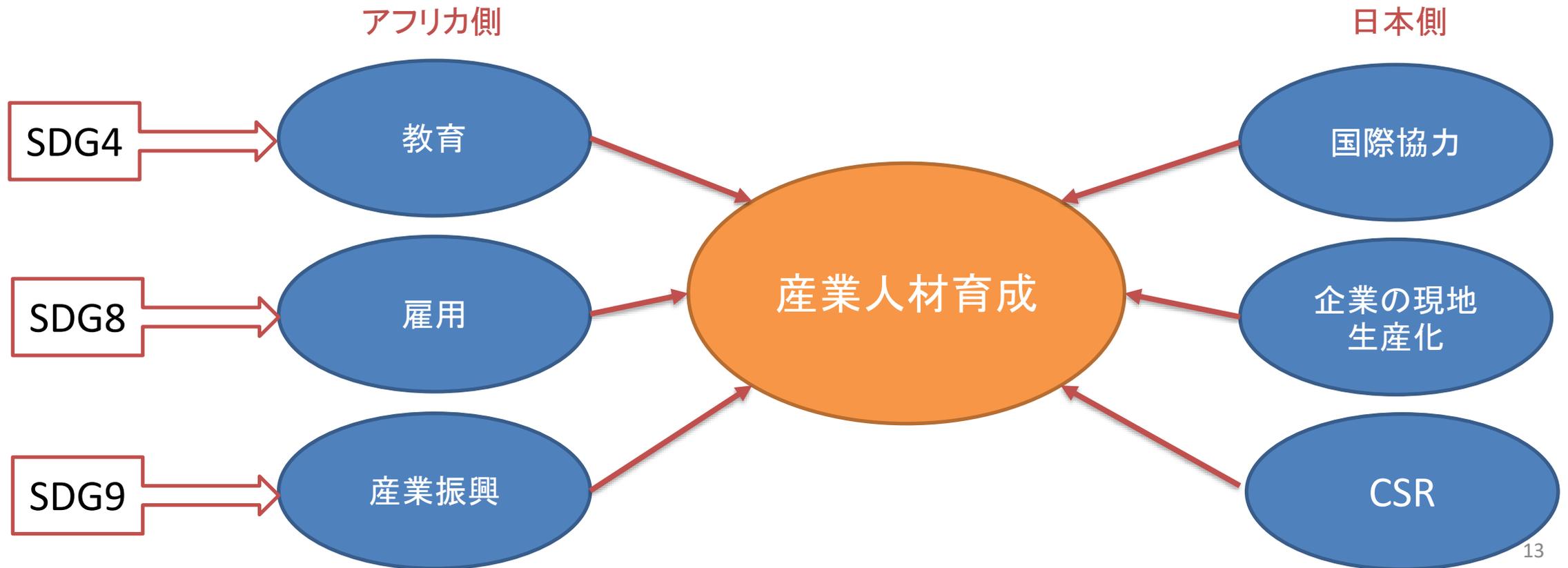
職業技術校



徒弟

開発需要の交差点としての 「産業人材育成」

全てのニーズが重なり合うけれど、縦割り行政や学問分野のデマケによって、十分な対応がなされてこなかった分野



「人材が欲しい」「○○になりたい」

何を教育すれば雇いたい人材となりたい自分がマッチするのか？



学校の教師

わが校には○○専攻と
××専攻があります。

若者



僕はITエンジニア
になりたい



私はファッションデ
ザイナーになる

我が国は2030年までに中
所得国になりたい。その
ためには優秀な産業人材
が必要だ



アフリカの政府高官

アフリカに現地法人
を作っても、現地ス
タッフにマネジメント
が任せられない...

正確に作業をしてくれる
工場労働者を沢山雇い
たいのだが...



日本企業

人的資本への投資とは、 教育支出を増やすことなのか？

資本

投資

• 人的資本

- 労働者個人が持つ能力。これが向上すると、労働者一人当たりの生産性が向上する。

← <教育>
職業訓練や学校教育
<健康>
保健サービス

• 物的資本

- インフラ(道路、鉄道)
- 機材(工作機器等)
- 土地、設備

← 建設
資材調達
土地買収

• 資金

- 現金、預金、債券、証券

← 債券発行
国際開発援助
• 贈与
• 借款

• 社会資本

- 人間関係(顧客やバリューチェーンの連携などを可能にする人と人のつながり)

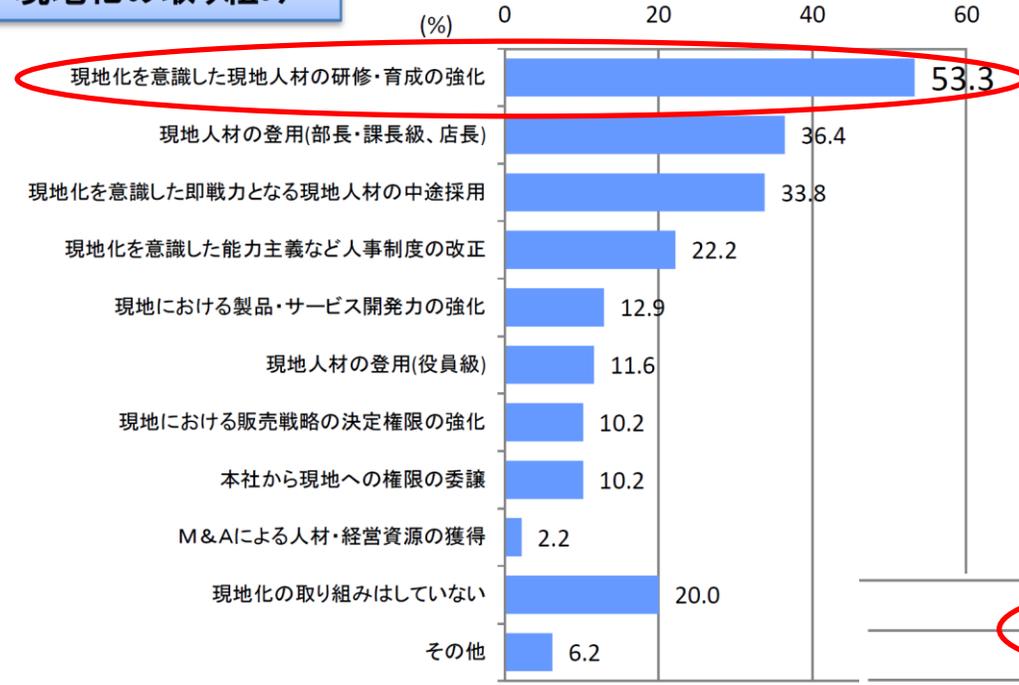
← ケースバイケース

近年、成長を思考する途上国政府の多くが職業教育(TVET)への予算を大幅に拡大している

予算が増えた割に、労働市場の求める人材が輩出できず、**若年失業**や**低生産性**が課題

在アフリカ日系企業から見た現地人材

現地化の取り組み



人材は海外ビジネス成功の重要な要件



人材育成のための**研修**に力を入れる企業が多いが、**現地人材の能力や意識**が課題

現地化の課題



出所:JETRO 在アフリカ進出日系企業実態調査2015

「人材」が重要というが、何ができる 人がいい人材なのか？

- 実際には、出来てほしい仕事や、期待される態度などは、産業や雇い主によって違う
- 教育機関は、知識体系に基づいて網羅的に教える発想が強く、産業界のピンポイントの需要に応えるのは不得手



SKY (Skills and Knowledge for Youth)プロジェクト

- 雇う側、訓練する側の**期待のギャップ**を軸に、労働者の**実際の技能**を評価する⇒どういう教育・訓練をするのが一番有効かが分かる
- いつも同じ評価基準を当てはめるのではなく、特定の状況で求められる技能を基礎として、“**浮動的評価軸**”で評価する

SKYプロジェクトの目的

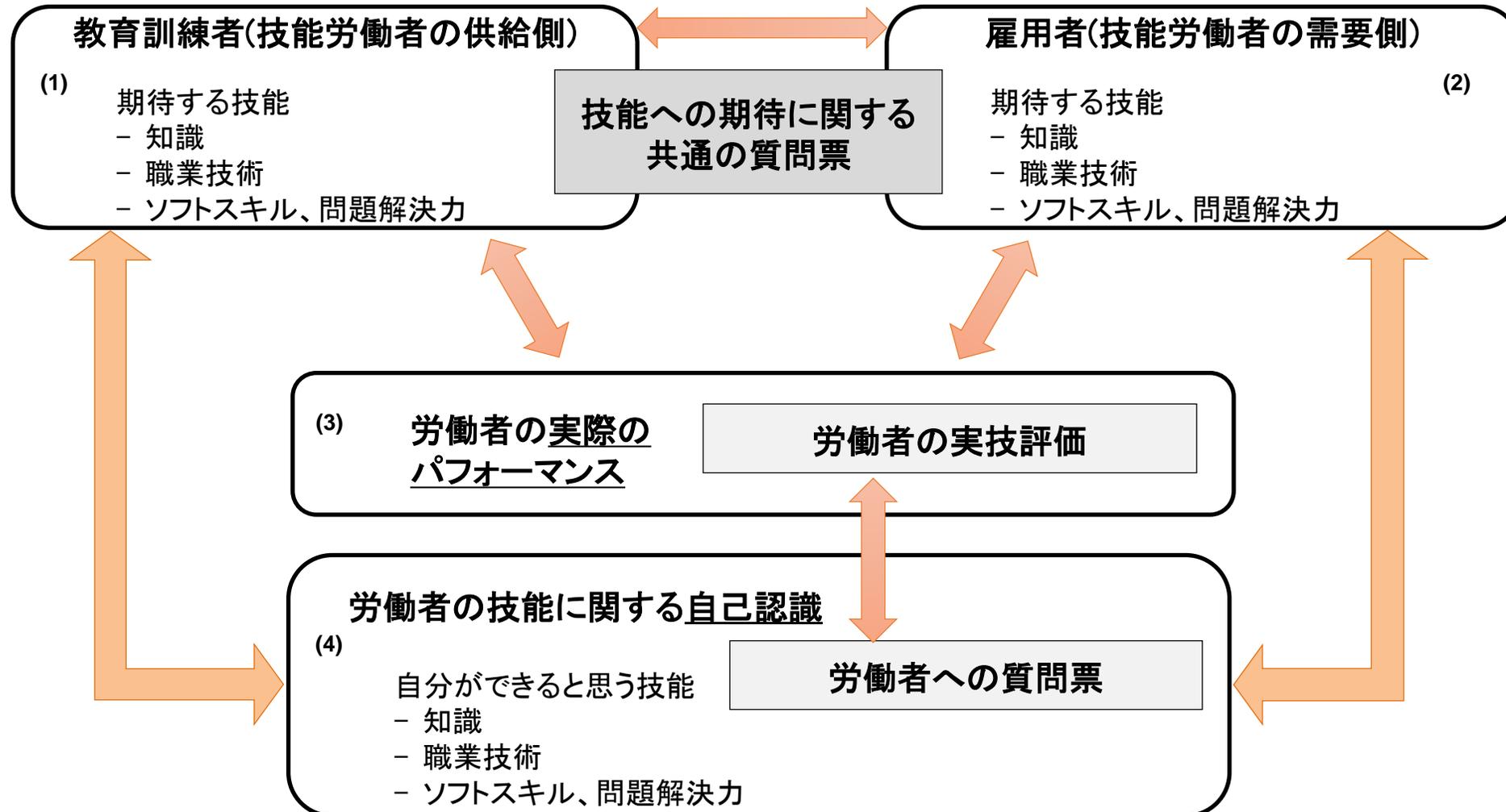
- アフリカ諸国の経済成長と貧困削減のため、産業人材が持っている能力を総合的に測定する
- 産業界で必要とされる技能を持った人材を、職業技術教育によって提供できているかを具体的に特定する

➡ 政策提言

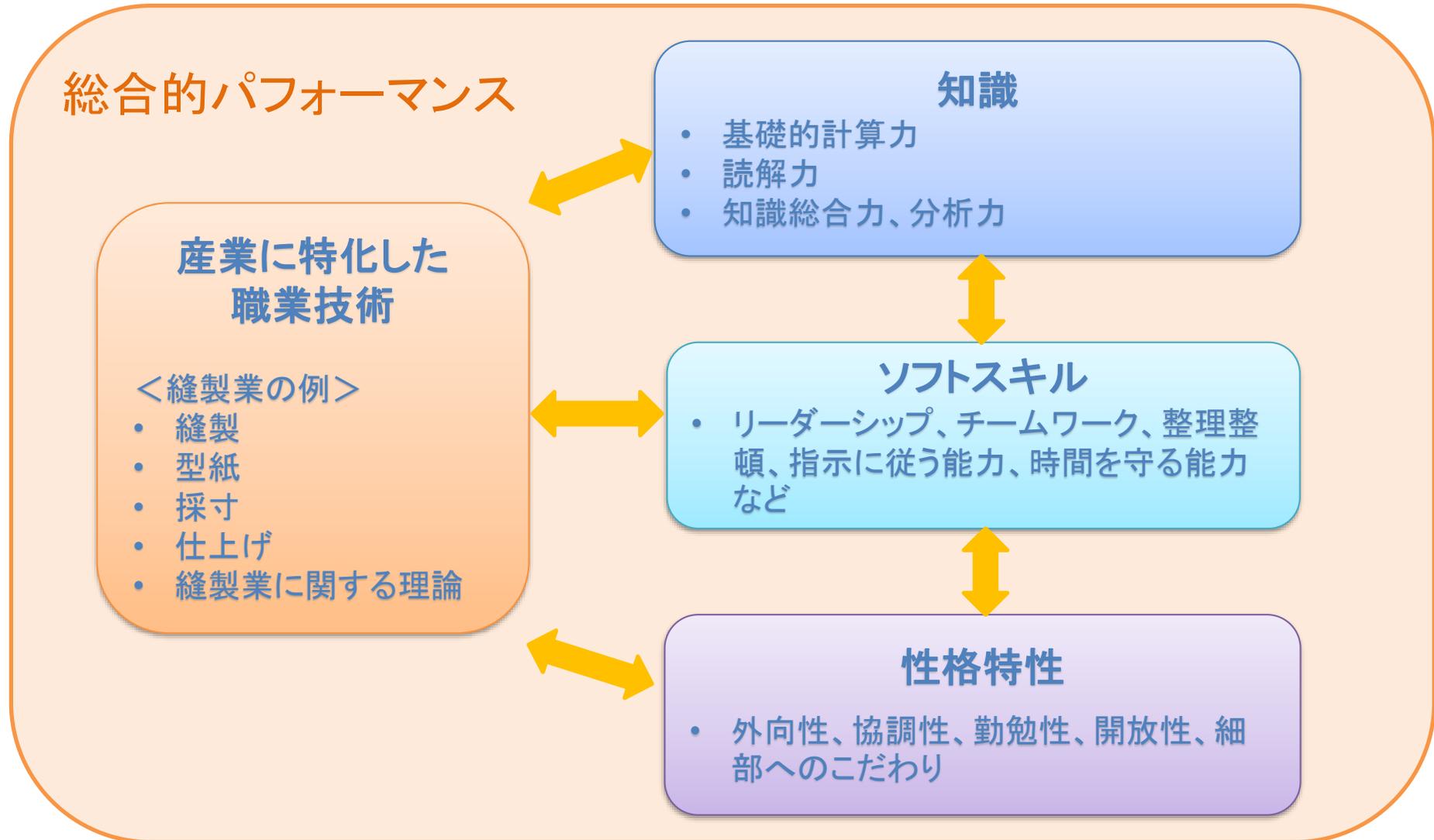
- 本プロジェクトが開発した技能評価のモジュールを、アフリカの国々の政府やそこでビジネスを行う企業が活用できるものに実装化する

➡ 汎用化、他国・他産業への適用

本プロジェクトで得られること①: 雇用の需給間での技能に関する期待と実際の対比



本プロジェクトで得られること②: 労働者の複合的問題解決能力の把握



終わりに

アフリカの人々の暮らしに寄り添う人材育成

- 本当の意味で「知識は力」と言えるように...

＜若者たちに対して＞ベンチャー大陸アフリカの潜在力

- 「取り敢えず学校に行けばどうにかなるのでは？」から、「〇〇をするために学びたい」への橋渡し

＜政府や企業に対して＞人材需要の見える化

- 「人材がない」から「〇〇をできる人にもう少し××を付加すればいい」への橋渡し

＜教育・訓練機関や教師に対して＞問題解決型の教育

- 「カリキュラム通り」から「卒業生が仕事や生活で使える知識とは何か」という問いの形成へ

終わりに

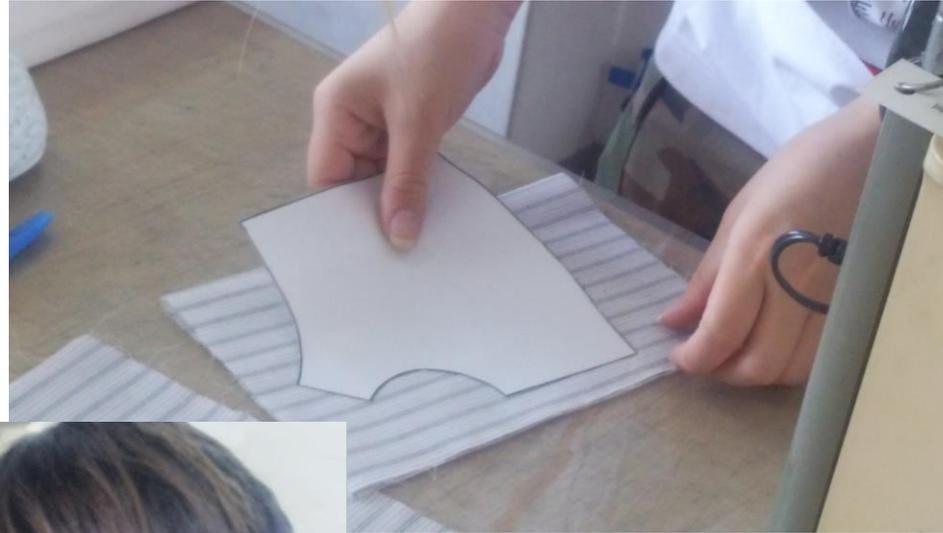
変化するアフリカ社会への感度を高める

- 思ってもいなかったところに変化の起爆剤がある
 - 銀行口座は持っていないなくても、携帯での預金・送金サービスでビジネスができる
 - ビッグデータがインフォーマルセクターを変える？
- 「国際開発」の教科書に書いてある発展モデルを覆すかも？

→アフリカの優秀な人材を育てることは、日本が世界の変化の先端に関わることにもつながる

同じ評価フレームワークに沿った技能評価 を各国で実施しています

日本の服飾専門学校による
実技評価の試行



ガーナのポリテクニク
における質問票と筆記
試験の実施





エチオピアでの技能
評価の様子



詳細は下記をご参照ください

ウェブサイト

<https://skills-for-development.com>

SKYニューズレター (隔週配信)

